

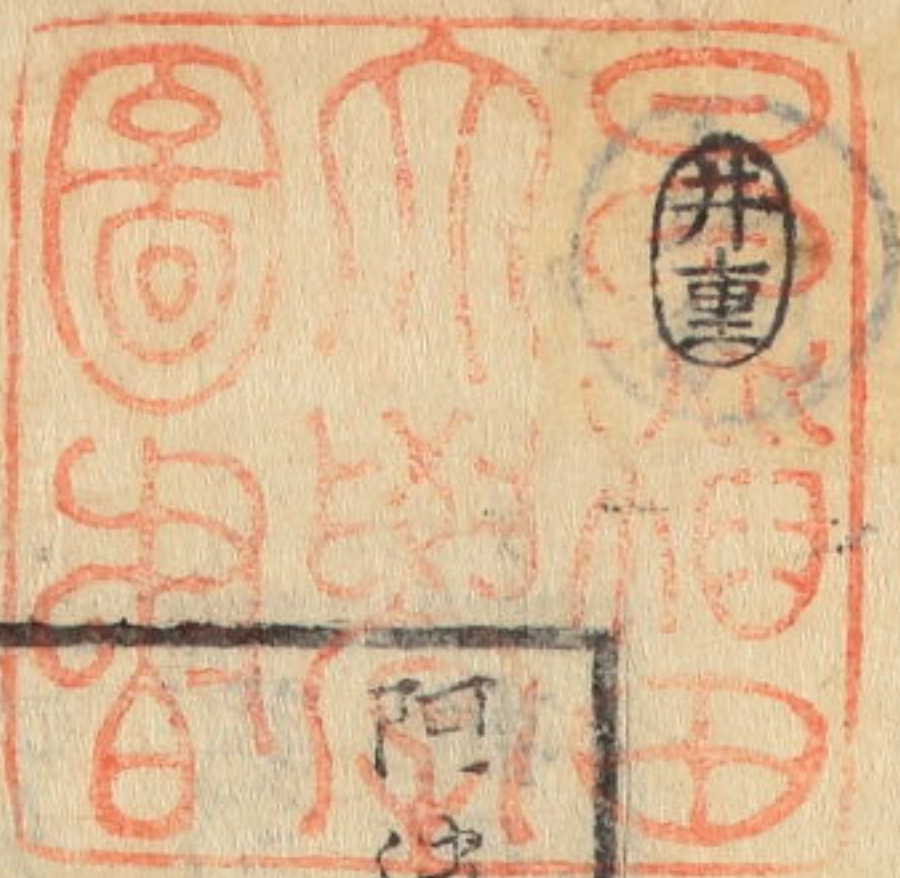


河波濃馬門

一

^ 13
2889
3





阿波之鳴門二之卷

柳亭種彦子著  
友人玉永癡夫校

畠山國清孝子及傳む

並觀音寺小夜系して次九所應驗と傳む

傳龍門山觀音寺の觀世音菩薩へむし孝徳帝の名  
く。靈驗と小揚子とを々の老若系傳目夜(はま)大内  
夜毎あむととこび。二七日本あむびを其夜の  
りて寒風肌と穿袖清骨冷本葉の食いとむく。こま  
床小坐すがごし。されど應驗とてうらひ此所

鳴門卷二

門へ13  
2889  
3

中なかつと佛前ぶつぜん小筒居つつかしてありけるが何方いづこともなく童顔どうがん鷓鴣せとがらの身み  
翁おきな一人次郎いちじょう九郎くわうがそむちうくこちより。世よ至孝功しこうこうあるのあまの  
人ひとと佛ぶつ小こううううの母ははの眼病がんびやう平愈へいいうを縁ゆかりが。あやまんもふら  
る物ものをそつへ幸福こうふくま縁ゆかりがしてさこり。此この一ひと隻しやく人ひと小こううううの  
つらつら災わざい及び及びささいいんん。わがわが皇天みかみの賞あほう。ささ小こああす。時ときの  
じじもも及及びままつつととひひままささちち。光明くわうめい赫奕こくやくの形かたちと現あらわれれ佛ぶつ教けう  
いりいりままととおもおもつつばばををささがが丁ぢやうのの小夜せいやの枕まくら小こおおととつつねね。南柯なんかの  
夢むささめめふふりり。次郎いちじょう九郎くわう奇異きいのおもひとささりり。ああここりりをを  
觀音寺くわんおんじの佛ぶつ殿でんある。柱はしら小こおおよりりて。ままごごろろととふふどどひひりりる。不

昭和九年  
七月三日  
購末

とあとあくくののやや鷓せとのの之の遠迹えんせき小こささととああうう縁ゆかりささすす日ひのの覺おぼととててじじ給たま  
つらつら梢せうのの花はなととままららつつ。夜よいいままつつ。明あけををああららわわぬぬ先飯路せんべんろ  
おおああももむむんんとといいででももささああるる。小時せうじおもおもああぬぬ蜻蛉せうてい掌てのひら中ちゆう小こささりり  
ててららごごううすす。愚ぐあるる者ものののああららひひああくく。彼蜻蛉かのせうていととままささすす。ふふくくむむすすひひ  
ててららごごううすす。愚ぐあるる者ものののああららひひああくく。此邊このあたりに小こ又また橋平はしへいとといいふふ。侍人さむらいののああららひひ  
ててららごごううすす。愚ぐあるる者ものののああららひひああくく。此邊このあたりに小こ又また橋平はしへいとといいふふ。侍人さむらいののああららひひ  
と射からら小こ妙めうありり。彼橋平かのはしへい書かきのの三さん年ねんいいままんんとといいふふ。二に言ごひひ  
が愛子あいこののままりりるる。今日けふもも又また三さん言ごひひとと誘いざなひひ。未いまだだ侍人さむらいいいとと思おも  
ち雌雄めをとこのの雉子けいことといいふふ。家いえとといいふふ。飯いららんんとといいふふ。ああららひひありり。ああららひひありり。

專門巻三



おつさあひつり。三言次郎九郎がゆかむつ時。いひまひ。  
 何れもらひさうづとらふ。揚年も次郎九郎の知故のこあらか  
 やよ。次郎。何地へ行つり。やとこらかやうけ。我もさるさか其  
 蛇と得させよさうらふ。次郎九郎やまさきとありとふい  
 不斗おもひいでさうい。さうお老翁のゆひさういあらはま  
 不さく物とさるさうづつ。幸福のゆひさうい。と告さひ  
 我さうさうさうねさうい。大お孫さうさうい。移橋平おむさひ  
 我此蜻蛉へまこくもちや。ところ。何れ。おわらせがこ  
 云ふ三言のゆさくあら不。やと法時。橋平三言といひ知れ

いささうさうさうねさうい。と。お。冬のおこいさひまら。  
 最も。の。不。う。小。う。ず。とも。お。か。つ。ず。忽ち。次郎九郎。う。愚。わ。く。孝  
 行。あ。ま。と。計。の。種。と。あり。や。よ。次郎。我。今。雉。二。羽。と。射。て。も。て。り。こ。の。眼  
 の。葉。わ。く。雉。の。肉。と。ら。あ。さ。さ。へ。盲。人。も。眼。と。ひ。く。と。さ。く。其  
 時。に。と。う。人。と。い。ふ。小。次郎九郎。是。と。実。と。大。お。飲。び。虫。さ。う。い。言。ふ  
 多。く。我。小。い。ろ。よ。さ。う。さ。う。と。と。ま。う。と。雉。の。袖。と。り。さ。く。小。お。取。ら。ん。と  
 ず。揚。年。心。お。あ。う。く。ま。さ。く。彼。が。孝。心。と。感。下。幸。何。と。り。小。一。筋。の。酒  
 房。何。れ。也。次郎九郎。次郎。誘。て。彼。所。小。い。こ。り。酒。と。い。い。て。ま。さ。う。め。だ。と  
 次郎九郎。何。と。さ。り。我。い。は。く。酒。が。好。ま。し。と。い。わ。我。の。む。さ。な。は。不

と陶とつりけつてつる家い小こるの母はとよろこぶさへと  
ハ橋は平へいますく感激えんげき一いっ母ぼ小こ河かつ入いる。別べつ小こ一いっ陶たうと持もじ  
くア。我われ價いまうくまると。ひささうまうめさねハ次つぎ郎らう九く郎らう大  
小せう醉すい發はつ一いっ橋は平へい小こまうれとけ彼かの雉けいと繩なは小こてむすび看み小こ  
け行ゆ小こ陶たうとさげ浪なみと踏ふとあ。頭あたま向むか塊かたまり小こつまづきよろめ  
くまづ小こおもたず彼かの雉けいと拓たく草そうのあう投なまうりありし  
も側わき小こ河かさりねとる雉けい子こ一いっ羽うこの音ね小こおとろきあいでられ  
ハ次つぎ郎らうハ巴はか雉けい子この糞ふん生せい一いっとおもひ。何なにも小こついで追おくお  
り。標めがねと音ねとて矢やつさこり花はなむく雉けい子こ反か射せとめぬ。次つぎ郎らう

再また交あおどろくところ。むうひの樹き林りんより弓ゆみ方かたへいし  
武ぶ夫ふ寛かん々々と河か也やとさう。ハ是こゝ則すなは畠はた山やま多た門かどが兄あに同どう名な國こく  
清きよが船ふね小こいでとるあり。國くに清きよ側わきの徒た者しやとて雉けい子こ反かとら  
せんとあす小こ次つぎ郎らう九く郎らうち泣なく。その此こゝ方かたの雉けい子こ小こて傳つたる也  
此こゝのこゝとて得えたりと音ね尾びつとまうと。物もの語ごりあす小こ  
清きよハ彼かの反か狂きやう人にんととおもひ。そのま雉けい子こ反か  
うハ。次つぎ郎らう九く郎らう心こゝろとやまんだ。こちへらんとあすあり。一いっつの子こ大  
雉けい子この雄おとこと唾つばつる也やもねハ是こゝ橋は平へい小こあつるもあり。犬いぬと  
あひやりとり入い。いとどちちもあつては清きよがまう小こ頭あたまと

さげぬ此このとらふて流るべし法其性の篤実あると  
賞あへて罪とせめず。次郎九郎が名と同じ。且おどろき。女人下  
まぐねと至孝ある事。我とく小少おどろび。さぞく訪ても賞  
づ。刺面會とて幸ありと。小袖一重小判二十両さひりね  
次九郎ハるましくとく喜て千度百度許謝あり。元の時ど  
ろりろ。さきおどろせる。今市ハ十郎と名と改め悪行  
募て家小あるとまねあり。此日長柄こちうろあり。め  
我合確ある次郎九郎。いろよき小袖と看ふうり。一の賤布と  
提さくこととく。大小訝り縁故成と。次九郎ハ十郎と名が

日頃より愚人。口をいへば。罵る女。つらふ。さきひり。  
ありあつ。路びふこちと。いろふ十郎共衛。世に悪人あり  
と。さぞと。いす此搭博のうちあり。二十兩とゆふ金あり。世に十  
兩とゆふ大金あり。ともあるま。と。布ちちち。世に十  
兩とゆふと。うち第ひ其搭博のら。いろふ。世に十  
兩とゆふ。我ハ賺入。と。石瓦や。いね。さきねらんと  
溜氣とあび。と。く。あ。れ。急。ち。怒。り。と。さ  
くち。す。ね。賤。布。や。ひ。り。い。て  
清。熱。と。ふ。ま。が。よ。い。て



國清  
孝子小  
千金

鳴門



鳴門

鳴門



風舟の如く本葉二葉賊布

もかけ。さやうも二両の小判と殺賊布

野子ふ。汝うくさうりの金と由縁もま

苦あ。おもゆふ。瓶小や魅さねつらん其小袖

こひ。い。別れり。汝うくさうりの金と由縁もま。一五二十と母

らふ。い。されど。日次より。汝うくさうりの金と由縁もま。今日ハ

住持。河。い。ま。ど。い。事。つ。ま。あ。い。あ。さ。ち。更。小。家。と。お。も。

こ。い。ま。さ。い。ま。ど。お。返。ま。い。ま。ら。次。身。ハ。あ。成。佛。恩。と。謝。下。

と。い。ま。さ。い。ま。ど。又。能。音。寺。つ。徳。で。さ。ら。か。話。の。側。小。な。り。お。も。い。

清らなる。紙小色一物とちりあり。指ひかていんぐら。紙の

ど。い。ゆ。小。鈴。び。今。日。ハ。好。む。の。こ。も。さ。あ。い。又。あ。お。や。う。ん。え。い。

と。家。よ。う。つ。つ。彼。紙。色。紙。ひ。き。さ。さ。お。ハ。豈。科。人。や。馬。糞。と。と。

こ。と。じ。く。つ。つ。と。り。大。お。お。ま。さ。薦。屏。風。お。う。け。あ。さ。い。こ。小。袖。と。

こ。も。小。是。又。芭。蕉。の。た。ま。り。い。ま。く。詩。り。膳。中。の。賊。布。と。い。じ。

こ。も。お。二。十。兩。の。金。十。八。兩。ゆ。り。て。何。と。二。兩。い。こ。の。た。ま。り。こ。い。

十。兩。を。湯。が。い。ひ。こ。も。ど。く。瓶。め。お。化。さ。ね。い。ふ。ら。い。ひ。は。い。も。と。

や。二。兩。ハ。本。葉。と。る。ん。ド。と。り。汝。り。十。八。兩。も。漸。々。小。本。葉。と。る。

らんハ。心。定。せ。り。此。馬。の。糞。と。縁。と。おも。ひ。て。食。ご。い。ま。い。こ。

のうくの仕合あり。阿多悪の畜生やと賤布衣を投りうと。  
十郎玄湯垣間よりよとびごとく取れぬ。是次郎九郎が悪を  
るより。おもひのり合壁よりかひかて。観音寺へ謝す。小  
やくとて馬糞と紙小色で拾せ彼が面書のゆいごとく  
くもきと音女のゆきぢのよめは小袖と殺り芭蕉の  
葉とくおさしあど。十郎兵衛が謀計あり。さて次郎  
郎へ彼雉子取おさし古草鞋もあらず。徳利の  
酒ハ尿の香もなさる。彼武夫の梳りて掃  
狐よのあざりし。おもひさる。雉子と割亨して母ハ

のうくの仕合あり。阿多悪の畜生やと賤布衣を投りうと。  
十郎玄湯垣間よりよとびごとく取れぬ。是次郎九郎が悪を  
るより。おもひのり合壁よりかひかて。観音寺へ謝す。小  
やくとて馬糞と紙小色で拾せ彼が面書のゆいごとく  
くもきと音女のゆきぢのよめは小袖と殺り芭蕉の  
葉とくおさしあど。十郎兵衛が謀計あり。さて次郎  
郎へ彼雉子取おさし古草鞋もあらず。徳利の  
酒ハ尿の香もなさる。彼武夫の梳りて掃  
狐よのあざりし。おもひさる。雉子と割亨して母ハ

鳴門

阿

波国鞆の浦ふちく。大崎七嶋の目の前よそえ。澗々々々。滄海  
水遠うして船こく。峨々々々。青山風暴うして松ひら。七も  
此塔小かりく。西玉の通風風もちあそと多りね。津川おそ  
津小のあぶらもあられど。さやうある花街あり。漆川おそ  
むる色ざと。都小かたりあく。されぬのさすれ男ら  
さふらある鳥帽子さて。さあやう小衣門ととめ柳の蒼を  
うちね。一換小いで。娼婦の欲奔の菩薩の天々さり  
ませしうとうさぶらむり。憐む。これ百家の妾。綿帳衣  
花の結とさ。朱簾とま。月つ。目と。貴と。おそ

り。綾波むく若さう。老と卧あさづき。船の向さき。紫りん。  
旭小花とむすぶ。風とま。根取とち。海草  
の流小より。娼妓のつひ。女院小  
鬪とる心。安養世界極樂浄土のこの。是子やお  
むんとおもも。むご。さ。後朝ハ  
羅衣香とと。心紅国おあ。後別松の  
玉章とひげ。神花街お。身體寒蟬お。養法  
師お。波おひ。田樂法師が拍板。樹總よ。か  
て。其あ。浦松の長とい。娼家。海お。山お



りんとうち哭なくお。さすかの塩しほ木もせんすぶあく。奴婢こひめのどくあひ  
 使つかで。お弓ゆみ妓ことあへんよりいと。うつ。是こゝろどころらび。糸いとより  
 水みづと汲くみ胡この帚はきて床とことま。ひ夕ゆふの妓この目め具ぐともかけも  
 一ひとや都みやこつ送りうすとも。何なにんうと。女子むすめの瀟せう瀟せうもおもひを  
 らし。早はやくおさ。おそく力ちから履はき實じつをくつ。さや二年にふたとしをつて。女むすめ院いん  
 おあねど。さうらあゆも。さうらあゆも。可よ愈よ息いきあうらち。親おやもか。ふも  
 あそねも。今日けふや死しび。明日あすや泉いずみ下した鬼おにとあらんと。さすかお命いのち  
 おまねで。血ちの涙なみだの袖そでとそめ。麻あし布ふの衣えさて。いらくと。あは  
 さま。胸むねのおもひ。火ひのつく。い。彼かれが好こ貌めいおて。賤いやし業わざ

涙なみだますと。あはれ。此この花はな街まちの花はな魁けいより。子こと儂なま身みせん。と。縁ゆかりが  
 多おほうりり。頃ころへ六月むつきあうを。火ひ雲うん天てんと。が。扇あふせの風かぜの。つて  
 つつきも。金かね鳥とり西山しんざんお沈おしずで。涼すず風かぜ中なかひり。海うみ士しの。こ。操とお  
 縁ゆかりども。蚊かの。種くさね。ぬ。せ。浪なみだび。こ。の。も。と。お。つ。ひ。い。て。海うみ系けいと  
 ながむね。浪なみだも。都みやこの。さ。ふ。ら。と。おも。それ。不ふ急きゅうふ。の。さ。か。も  
 う。あ。して。女むすめ時とき落お涙なみだあ。る。小こ此この時とき家いへ長なが塩しほ木きの。お。佛ぶつお。む。う。い。証しやう  
 と。あ。し。者もの終はして。何なにり。ら。が。お。ち。か。恋こひし。む。声こゑと。さ。つ。け。日ひと。い。つ。か  
 一ひと。眉まゆ。あ。つ。め。あ。く。可よ忌よや。と。こ。ふ。て。泣ない。く。と。と。つ。涙なみだお。む。せ  
 て。答こたせ。ざ。ね。ち。う。く。こ。ち。より。お。も。と。こ。して。大おほお。叱ちかり。は。この。こ





あやこきょう  
 益木 婿様  
 ていふ  
 身婦士  
 七  
 三



集つまらふふひひ回まわるるありありやいやいででささううんとんと花はな顔がほ忽たちちち血ちとと玉たま玉たま  
お一いつしん巻まきのの刀やち握にぎりりてて塩しほ本もとががくくおおははぢぢりりららるる塩しほ本もとららままとと目めはは  
おおままりり舌しほ吐つてて冷ひやみみししああとと誰たれ有あのの法はふ終はつややああをを阿あ比ひ陀た  
佛ぶつとと唱なむむしし側わきととわわららぬぬ蚊かややりりららむむらすらす火ひ桶おけののううちちおお横よことと  
りりてて杖しやく提てげげららううららふふららううららびび火ひ桶おけととひひささふふせせああままううとと  
のの吹ふややああんんああわわぶぶとと妻つまのの月つきへへ賞あやううすすししとと一ひと人ごちち扇あふ灰か  
ここのの混ま空あおおららううららううとと煙けととわわららぶぶららうう子こ坐まとといいんとんとをを  
るる火あ鹽しほ本もと裾すそととちちととささくく申まを彩いろ返かへせせささふふらら我われとと罵ののりり  
つつののおおららううららううてて吐はき氣きへへおおげげままししららんんここのの料りょう簡かんああるるへへいいでで世よ

その顔うらおお極ごく々々ううつつくくああくくぢぢたたとと火ひ桶おけののううちちららりり杖しやく提てげげららうう  
けけももおおおおととがが夜よ門かどととららりり頼たのみみ火ひ桶おけととつつけけんんととすすおおおおのの呼よびここ  
魂たま消しょうええららりり声こゑととわわげげののおおととねねええららりりいいゆゆととくくおお夕ゆふ鏡かがみよよむむ  
ううららとといい年とし月つきををぬぬめめららふふおおひひままいいららせせららととままががめめららいいおお我われ  
顔かほををもも我われああららずず殊こと小こ立た體たいのの不ふ見みああららぬぬ佛ぶつ化けららううととくく  
ししととややららんん法はふののおおももつつととくく殺ころささばばいいつつとと殺ころととくくとと世よはは  
本もとががおお小こううととつつききてて身み火ひののががねねんとと河かせせりりららるる塩しほ本もとががくくとと  
ららちち笑わらひひささるるとと命いのちががおおららししととああららぬぬ妓あを女むすととああららううらら客きやくととむむららしし  
とと奴しづ婢めととああららううららたたててんんおおららししととくく艶あやああるる老おいああららううららもも暗あん夜やのの

唐門卷之三



錦深山の花あがむものをも向にあり。此焼鉄おちりもつる。い  
ふくにつけまらふら子氣も魂も身小とます。よろめさく出入  
とまらる。友小おられ。雛鶴の野分の風小吹こてらぬ。筆とある  
石女が呵責の鬼小何ふと。塩本おゆとらつてあさく。白髪  
みりも。まらふ小のころ。歯取うと。め。をさう。清く。花  
よりぬき。おゆと顔。い。や。杖提。い。ら。人。と。あ。り。る。時。擣  
より水ことあがれ。老女が頭。う。り。彼。焼。鉄。の。火。も。う。ち。清  
り。塩本。ち。怒。り。頭。と。う。て。擣。上。と。と。あ。れ。い。ま。も。花。街。に  
い。初。と。あ。と。お。ろ。く。蟬。の。羽。も。賺。か。ろ。ら。ら。あ。る。袴。の。う。り

ふうおと。練貫の水のどくま。一重衣と。一個の美男  
子。て。手。小。目。が。く。ら。ふ。こ。ね。ら。る。簾。と。う。け。て。こ。も。草。深。百  
合。と。照。露。の。も。異。あ。と。と。こ。ら。花。桶。と。さ。げ。り。今。ら。子  
が。危。急。と。こ。ま。け。い。花。桶。の。水。火。洒。る。あ。べ。塩。本。目。と。頭  
。は。今日。初。見。糸。の。客。あ。り。ず。や。と。も。何。等。の。理。の。り。我。女  
。責。撃。さ。ま。し。げ。と。あ。ら。と。怒。お。家。と。罵。れ。彼。客。且。小  
も。う。け。も。花。桶。火。側。小。あ。さ。扇。と。ひ。よ。い。て。雲。と。區。道。と。い。は  
り。欲。ら。と。あ。て。い。か。我。小。吹。毛。剣。の。り。殺。活。時。小。臨。と。朗。詠。と。も  
つ。て。塩。本。が。側。小。と。こ。り。賊。婦。小。む。つ。つ。て。盆。蓋。の。亡。と。手。と。あ。る

言門巻二



罪の心おとさへあはらめ。天罰おもひまかり  
 や。佩刀取扱たまつこ。老女の心ち。両段あり。お助と  
 扱ゆるまゝおて扱ふと。腰より下の控。こゝろとちりなる。  
 彼客刀とりまど。鍛冶か神妙なる。銚あま。母小鮮血と。酒を  
 狂言佳月取姑さまありと。ひとりごち小女と。こゝろとちりなる。  
 子膝が。こゝろとちりなる。とづくおぢりより。花おまこめぬ  
 風も吹く。こゝろとちりなる。お家の袖もて。刀の鐙と。と  
 うちかかれぬ。彼客刀とひくおまこめぬ。やとく。鮮血とぬ  
 しくりぬ。彼客うち笑て。花おまこめぬ。お風とめて。月の雲

小こづり。母の血と。おまこめぬ。あど風雅の。こゝろとちりなる。  
 津の国長柄の。里釘杖の。處女おら。我とおる。おりやと。おまこめぬ。  
 うち驚と。こゝろとちりなる。ど。此時と。斜月沈と。とく。野根山とく  
 今。の。躁小燈と。こゝろとちりなる。銀燭徒と。こゝろとちりなる。す。子おま  
 うけ。螢籠と。こゝろとちりなる。彼客の。面と。こゝろとちりなる。  
 らね。入。螢の。こゝろとちりなる。火おと。と。源の。こゝろとちりなる。お。女車と。おま  
 て。まり。ひ。の。車。お。ま。め。さ。又。玉。づ。の。君。と。兵。部。の。官。と  
 こ。せ。ま。ら。せ。んと。お。華。の。ひ。ま。螢。と。い。れ。お。も。う。げ。あり。り。  
 子。も。こ。う。の。女。あ。れ。は。是。より。や。お。も。ひ。お。り。し。あ。る。人。是。則

雨宿りのありの<sup>あやむく</sup>や、かゝるく<sup>かゝる</sup>借老とちうひ。懐入<sup>こひい</sup>しうは。  
且喜ひ<sup>かつらひ</sup>且<sup>かつ</sup>とありのい<sup>い</sup>や、と<sup>と</sup>私<sup>わづらひ</sup>もとより、さうとせむ<sup>さうとせむ</sup>  
く<sup>く</sup>け羅<sup>ら</sup>やが<sup>が</sup>れ<sup>れ</sup>曇<sup>とむ</sup>とく<sup>とく</sup>花<sup>はな</sup>あがり<sup>あがり</sup>文<sup>ぶん</sup>あさ<sup>あさ</sup>と暗<sup>やみ</sup>とく<sup>とく</sup>し

上杉



阿波之鳴門三之巻終

サナ  
る

せ

や

し



